

3-13. グラウンドワーク大山蒜山（国立公園大山を中心とした地域）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

大山を中心とした鳥取県西部地域とその隣接地域では、数年前より豊かな自然環境を活かしたエコツーリズム事業を推進しているが、未だ魅力的なエコツアー企画や商品が完成しておらず、事業が経営軌道に乗っていない状況である。

大山は、国立公園に指定される等優れた自然と景観が自慢の名峰で、その山麓や周辺域には、大山集落や皆生温泉の宿泊基地があるが、大山集落はスキー人気の低迷、皆生温泉は団体旅行を対象とした施設の大型化による弊害によって、苦しい経営に陥っているところも多く、その現状を打開する手段としてエコツーリズムやスポーツ観光、健康ツーリズムに望みをつないでいる。

その一方、大山の南側から中国山地にかけて広がる農山村地域では、過疎高齢化が進み、残された自然や歴史遺産、生活文化を資源に、交流人口の増加を目指して、日野郡いきいきツーリズムネットワーク等を組織し、農村体験型観光を進めようと努力している。

このような背景から、大山を含む鳥取県西部では 2013 年秋にエコツーリズム国際大会の開催が決まっており、エコツーリズム事業に係わる人材の育成とともに、魅力的なエコツアーの商品企画の開発を進めている。

ここ大山地域では、主峰大山をはじめ、烏ヶ山、蒜山三座等の山々の眺望・景観、火山地形、ブナ林・ミズナラ林、湿原・草原、里山雑木林等の植生、オオサンショウウオ等の天然記念物、自然生態系、牧場や山里等の里山・農村景観、大山寺・大神山神社、大山道、宿坊等自然文化遺産、神話・伝説等大自然を背景とした物語が存在しており、これらを資源としたエコツアー企画や自然学校（自然体験型環境教育）事業を進めている。

そのような活動の中で着目したのが、名峰としての大山の自然や景観の魅力であり、昨年度は、大山と同じく美しい巨大火山峰を地域のシンボルやランドマーク、ふるさとの山（富士）として有する名峰地域で景観保全やエコツーリズム、自然学校事業に取り組む組織・団体を大山地域に招いて、「名峰景観ツーリズム・シンポジウム大山」を開催し、活動連携を進めるとともに、名峰地域から本格的にエコツーリズム事業や教育旅行事業に取り組んでいる NPO 法人浅間山麓国際自然学校の橋詰元良理事長、NPO 法人富士山エコネットの三木廣理事長を講師（エコツーリズム推進アドバイザー）にエコツーリズムセミナーを開催し、ロンクトレイル事業やエコツアー型教育旅行事業に取り組むようになっている。



(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 24 年 11 月 16 日 (金) ~17 日 (土) 平成 25 年 1 月 29 日 (火) ~30 日 (水)
場 所	第 1 回 11 月 16 日 (金) ~17 日 (土) 鳥取県大山町、岡山県真庭市 第 2 回 1 月 29 日 (火) ~30 日 (水) 鳥取県米子市、岡山県真庭市
ア ド バ イ ザ ー	信越トレイルクラブ 事務局長 木村 宏氏 公益財団法人キープ協会 環境教育事業部シニアアドバイザー 川嶋 直氏
参 加 者	第 1 回 11 月 16 日 (金) 鳥取県大山町セミナー参加者 実行委員会関係者 (グラウンドワーク大山蒜山、大山観光局、奥大山古道保存協議会、大山中海 観光推進機構等)、自然保護団体 (大山日野川自然の会、晴れの国野生生物研究会等)、エコツー リズム推進団体 (大山自然歴史館、蒜山ガイドクラブ等)、エコツアー実施団体関係者 (大山ツ アーデスク、真庭遺産研究会、蒜山ツアーデスク等)、地元観光機関関係者、自治体 (大山町、 江府町等) 担当者、大学教授 (鳥取大学) 及び、ロングトレイル事業に興味のある一般人 計 50 名弱 11 月 17 日 (土) 大山周辺及び岡山県真庭市 第 2 回 1 月 29 日 (火) 岡山県真庭市セミナー 参加者 17 名 米子市皆生温泉情報交流会 参加者 10 名 1 月 30 日 (水) セミナー (鳥取県米子市) 参加者 実行委員会関係者 (グラウンドワーク大山蒜山、大山観光局、大山中海観光推進機構、大山日野 川自然の会、晴れの国野生生物研究会等)、環境教育・自然体験型教育旅行の推進団体 (サント リーホールディングス、養生の里、森の国、大山青年の家、米子水鳥公園、三瓶自然館、津黒い きものふれあいの里)、エコツーリズム推進団体 (蒜山ガイドクラブ等)、エコツアー実施団体関 係者 (大山ツアーデスク、真庭遺産研究会、蒜山ツアーデスク等)、地元観光機関関係者、自治 体 (真庭市、米子市、大山町等) 担当者、学生 (鳥取大学等)、大学教授 (鳥取大学) 及び、ロ ングトレイル事業に興味のある一般人 計 50 名弱
スケジュール・方法	(第 1 回) <1 日目> アドバイザー: 木村 宏氏 尾高→横原→博労座→枳水等を視察 ロングトレイル・フォーラム大山に講師出演「信越トレイルについて」、情報交換会 <2 日目> 大山寺他、大山地域を視察 (大山寺→枳水→鍵掛峠→御机→下蚊屋→笠良原→鏡ヶ成→刈刈→ 蒜山)、蒜山地域を視察 (三木ヶ原→蒜山高原線→百合原→塩釜交差点→茅部野→郷原→鳩ヶ原 →朝鍋) (第 2 回) <1 日目> アドバイザー: 川嶋 直氏 自然体験型教育旅行勉強会まにわに講師出演 (キープ協会の事業やインストラクション事例等の 紹介) <2 日目> 大山中国山地自然体験型教育旅行フォーラムに講師出演 (キープ協会の事業やインストラクショ ン事例等の紹介)

(3) アドバイスの内容

●木村 宏氏からのアドバイス内容／平成 24 年 11 月 16 日（金）～17 日（土）

- ・ 木村氏には、11 月 16 日（金）に大山スキーセンターで開催した「大山ロングトレイル・フォーラム」での基調講演を依頼する形で、ロングトレイル事業推進に向けての助言・指導を受けることができた。
- ・ 会場となる大山スキーセンターは、大山の中腹、標高 900 メートルあたり大山中の原スキー場の中に建てられた施設で、大山の北壁を間近に仰ぎ、日本海をパノラマ的に見下ろす絶好のロケーションにある。
- ・ フォーラム当日（講演日）は、青空に新雪の大山が山麓から山頂までくっきりと鮮明に見える最高の風景日和であり、講演に先立って、米子空港から会場まで木村氏と移動する途中、少し寄り道をして大山のビューポイントを案内することができ、その移動中も大山地域の環境やロングトレイルとしての大山道（古道）の復元活用について紹介することができた。
- ・ 木村氏の講演は、写真たっぷりのパワーポイント映像を活用して行われ、飯山市と信越トレイル（里山を巡る全長 80 キロメートルのロングトレイル）の概要、関田山脈の成立ちや環境、参考事例としてのアパラチアン・トレイルの紹介、信越トレイルクラブの紹介、トレイル整備の状況、整備にあたっての考え方、メンテナンス体制、信越トレイル・ガイドライン、信越トレイルトレッキングルール、マスコミ・旅行代理店への説明会、二次交通システム構築に向けた検討会議、地区ごとに行った住民に説明会、宿泊施設との連携体制の構築、自然環境教育の場としての利用、交通事業者に向けた講習会の開催、消防署と連携した救助体制の確立ガイド講習、ガイド・レンジャー登録に向けた説明会、テントサイトが平成 12 年 6 月にオープンしたこと、コースの紹介（斑尾高原エリア、涌井～桂池エリア、桂池～牧峠エリア、牧峠以北）等について丁寧な説明や紹介がなされた。
- ・ 木村氏の講演の後、ロングトレイルとして復元活用を進めて大山道（古道）について、蒜山高原を通るコース、奥大山古道、尾高道、坊領道、横手道、川床道等の各ルートごとに、それぞれの区間で復元作業や活用に取り組む団体の関係者からの説明報告があり、木村氏もそれぞれを説明報告の内容をよく聞いており、その後の質疑応答の中で今後のロングトレイル活用等について助言指導がなされた。
- ・ アドバイスの内容は、大山道（古道）の資源性の評価に加えて、その中心にある大山寺集落のロングトレイル事業における位置付けであった。木村氏の助言は、「大山を一周するコースを進めるよりも、その中心にある大山寺地区（大山寺とその周辺に広がる山岳宗教で栄えた聖域的な空間）に向かうそれぞれの大山道（古道）コースの個性や特徴を活かし、大山に向かい歩いて、大山寺（地区）に集まるロングトレイル事業を考える方を優先すべき」という内容に受け取ることができた。
- ・ 翌日の 11 月 17 日は、奥大山古道、尾高道、坊領道、横手道の大山道（古道）4 ルートを歩いて大山寺に集まるトレッキングイベントを計画しており（川床道はこの時期積雪があり除外）、木村氏も視察参加する予定だったが、当日は雪や雨のふる荒天になったため、風雨中で坊領道ルートのみを実施することになり、木村氏も参加を断念した。
- ・ 代わりに木村氏は奥大山地区や蒜山地域（高原）を視察することになり、雨天で視界が十分ではなかったが、高原農村の牧歌的な風景が広がる蒜山高原の景観の資源性は木村氏も評価し、農道等を利用したトレッキングエリアとしての魅力と利用可能性について助言を受けることができた。
- ・ 更に、蒜山高原から米子空港に送る車中では、飯山市の鍋倉高原にあって木村氏から自ら経営する「なべくら高原・森の家」の活動や事業についても紹介を受けることができた。

●川嶋直氏からのアドバイス内容／平成 25 年 1 月 29 日（火）～30 日（水）

- ・ 川嶋直氏には、1 月 29 日（火）の「自然体験型教育旅行勉強会まにわ」、1 月 30 日（水）の「大山・中国山地自然体験型教育旅行フォーラム」に講師出演をいただき、キープ協会等での川嶋氏の活動事例をもとに、大山地域、蒜山（真庭）地域において教育旅行事業や自然学校、エコツアー等を行うにあたり、必要となるガイド・インストラクター等の人材育成の仕組みや求められる参加者対応（ガイド・インストラクション）等についての助言・指導を受けた。
- ・ 1 月 29 日（火）の「自然体験型教育旅行勉強会まにわ」は、川嶋氏の講演と意見交換を中心とした勉強会で、川嶋氏の講演に先だって、真庭地域で取り組んでいる教育旅行について、津黒いきものふれあいの里館長の紹介等があり、自由な雰囲気での勉強会となった。川嶋氏の講演は、ホワイトボードを利用し、身振り手振り等表現力豊かなパフォーマンスで進められ、常にお笑いを交え聴衆を話題に引きこんでいた。
- ・ 講演の内容は、山梨県清里にあるキープ協会で行われている自然学校についての紹介や、事業の成り立ちから周辺環境、活動の理念等を詳しく説明し、キープ協会の教育旅行（環境教育）事業をはじめ、参加者とのコミュニケーションのはかり方やガイド・インストラクションの事例等、川嶋氏の失敗談も交えて紹介を受けた。
- ・ 1 月 30 日（水）の「大山・中国山地自然体験型教育旅行フォーラム」は午前中に、サントリー森と水の学校やそのインストラクターをしている鳥取大学森友サークルの活動紹介、このフォーラムの主催団体の一つであるグラウンドワーク大山蒜山の活動紹介と大山地域での環境教育事業の状況報告、岡山県真庭市の津黒いきものふれあいの里や鳥取県米子市の米子水鳥公園の環境保全や環境学習の紹介が行われ、午後的大山・中国山地における教育旅行の取組紹介として、島根県大田市の三瓶自然館、鳥取県倉吉市の NPO 法人養生の郷の取組が紹介された後、大山の森の国や大山青年の家の取組が紹介される前に、川嶋直氏の講演が約 1 時間 10 分ほどプロジェクターを使って行われた。
- ・ フォーラムの参加者は、大山周辺で環境教育や自然体験活動している団体個人、行政関係者等教育旅行に関心の高い個人・団体関係者が集まった。
- ・ 30 日も、29 日と同じく川嶋氏特有の人を引きつける名口調で、山梨県清里にあるキープ協会で行われている自然学校について紹介。成り立ちから周辺環境、活動の理念等を詳しく説明し、キープ協会の教育旅行（環境教育）事業は、ほぼ農場を中心とする協会の敷地内で行われ、首都圏及び近郊の大都市圏の親子連れ等をターゲットにしている等、その取組やプロジェクトの立て方等について紹介や説明を受けた。特にキープ協会で行われている自然体験型環境教育プログラムの具体的な事例紹介では、導入・展開（本体）・まとめというプログラムの流れが分かり、実際に活動をしている方には取組のヒントになるものであった。
- ・ その後、エコツアー（教育旅行）を企画するうえでのポイントを、構造面と人材の面、そして具体的に長野県の八ヶ岳で行われている婚活プログラムを参考に助言を受けた。

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

(木村宏氏からの助言を受けて)

- ・ 大山地域では、NPO 法人浅間山麓国際自然学校が進める浅間山一周ロングトレイル事業に習い、グラウンドワーク大山蒜山が中心となって大山一周をするロングトレイルを進めているが、明確な事業ビジョンを持つまでに至っていなかった。また、ロングトレイル事業についてもしっかりと連携体制が整っている訳ではないが、木村氏から飯山市で進める信越トレイルの事業やその取組について学び、助言を受けたことで、参加者や関係者は、ロングトレイル事業のイメージをそれぞれの立場で持つことができるようになった。
- ・ 講演で紹介された「信越トレイル利用状況年間が約3万人で、全線開通から4年が経過し信越トレイルの知名度が向上し、またテントサイトがオープンしたこともあり、利用者が年々増えている」ことや、「2004年5月～2008年9月で自然環境調査参加者が約700名」は、ロングトレイル事業に取り組むものとしては、大きな発奮材料であり、希望に変わりうるプレッシャーでもある。
- ・ とりわけ、マスコミ・旅行代理店への説明会、二次交通システム構築に向けた検討会議、地区ごとに行った住民説明会、宿泊施設との連携体制の構築、自然環境教育の場としての利用、交通事業者に向けた講習会の開催、消防署と連携した救助体制の確立等、信越トレイルがこれまでに取組んだ活動について、木村氏から説明を受けるにあたり、今後、大山蒜山エリアでロングトレイル事業を進める上で課題となる内容もみえてきたことから、これまで、大山道の復元活動とわせて、漠然と進めていたロングトレイルやトレッキング事業について、フォーラム参加者全員が情報を共有することで、参加者それぞれが具体的な事業イメージを持つことができたと考えている。
- ・ あわせて、木村氏の助言や信越トレイルとの環境条件を比較する中、ロングトレイル事業を進めるにあたり大山道(古道)の資源性や魅力を再認識することができた。

(川嶋直からの助言を受けて)

- ・ 川嶋直氏の講演から参加者が強く受けた印象は、その人を引きつける話術の素晴らしさとあわせて、エコツアーや教育旅行等において、参加者から求められるガイド・インストラクター像である。
- ・ これまでキープ協会の関係者やキープ協会ではテクニックを学んだものからキープ協会を進めている環境教育事業について話を聞く機会は、少ないながら大山地域においてもあったが、何となく分かりにくく、グラウンドワーク大山蒜山の役員を含め「キープ協会は敷居が高い」という印象を持つものもいたが、川嶋氏の講演や人柄からその印象は一変したと思っている。
- ・ その極めつけが、川嶋氏自身のパートウォッチングでのガイド失敗談？やアナトール・フランスの言葉「たくさんを教えることで、あなたの虚栄心を満足させるのはやめなさい。火花を散らしさえすればそれで良いのです。良い枝があれば、火は自然に燃え上がるのですから・・・たくさん教えて満足するのは、教える側だけ」である。
- ・ 参加者にとっては、環境教育や教育旅行の分野で有名なキープ協会の事業や取組について知ることは勿論、この分野において功績のある川嶋氏のような個性的・魅力的な人物の話を直に聞くことができ、大山蒜山地域において自然体験型教育旅行やエコツアーを進めるにあたり、目標とする事業イメージや事業に係わる理想的な人物像をそれぞれの立場で明確にすることができたと考えている。

●今後の期待される効果

(木村 宏氏からの助言を受けて)

- ・ 「大山を一周するコースを進めるよりも、その中心にある大山寺地区（大山寺とその周辺に広がる山岳宗教で栄えた聖域的な空間）に向かうそれぞれの大山道(古道)コースの個性や特徴を活かし、大山に向かい歩いて、大山寺(地区)に集まるロングトレイル事業を考える方を優先すべき」は、木村氏の助言として受け止めている。
- ・ この木村氏からの助言と信越トレイルの取組を参考に、大山蒜山地域で大山道(古道)を活かしたロングトレイル事業を展開していく方向であることから、信越トレイルに習い、大山道について、蒜山高原を通るコース、奥大山古道、尾高道、坊領道、横手道、川床道等の各ルートでの古道の復元活用や景観保全の活動を加速させることで、埋もれつつあった歴史の掘り起し、歴史的資源の復元や次世代への歴史の継承が期待される。あわせて、古道の復元やトレイル整備によって、林床への日照が拡大し、トレイル沿いの植物個体数が増加、健全で生物多様性に富んだ森林環境の再生活動への発展することを期待している。
- ・ また、大山道(古道)の復元活用をロングトレイル事業とわせて進めることで、他の地域にない大山地域オリジナルな事業展開も可能となり、マスコミ・旅行代理店への説明会、二次交通システム構築に向けた検討会議、地区ごとに行った住民説明会、宿泊施設との連携体制の構築、自然環境教育の場としての利用、交通事業者に向けた講習会の開催、消防署と連携した救助体制の確立等の地道な活動を着実にすすめることで、エコツーリズムが普及すると考えている。

(川嶋 直氏からの助言を受けて)

- ・ 今回の勉強会やフォーラムに参加した人たちは、大山蒜山地域において、環境教育や教育旅行、エコツーリズムに取り組む組織・団体の代表者や関係者であり、川嶋氏の講演を受けて、「キープ協会」という豊富な実績や人材を有して教育旅行に取り組む自然学校系機関・団体の事業内容を知ることができ、この分野において遅れをとっている大山蒜山地域において自然体験型教育旅行やエコツーリズムを進めるあたり必要とされる人材育成やプログラムづくりを進めるためには、それぞれの団体が個別に対応するのではなく、連携して取り組むことの必要性・重要性を認識することができたことから、大山蒜山地域を含む中国山地において、自然体験型教育旅行やエコツーリズム事業を推進する広域ネットワークを形成する気運が高まったと考えている。山としての魅力や資源性について情報発信を行うことができるとともに、資源の保全と活用が進むと期待される。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

(木村 宏氏からの助言を受けて)

- ・ 木村氏から紹介説明を受けた信越トレイルでのロングトレイル事業の取組については、これまで手探りで大山道の復元活用やロングトレイル事業を進めている大山地域にとっては、全ての内容が参考になる。
- ・ とりわけ、信越トレイルの理念（環境の保全を最重点とする。ハイカーの安全の確保に努める。伐採は極力避け、工作物も極力設置しない（道標や案内板は除く）。ボランティアの力で整備を実施する。は、大山蒜山地域でも重要と考えていたが、移動中に木村氏から事例をもって聞かされた公共事業におけるロングトレイル整備にあたっての問題点は、説得力のある話であり、大山蒜山地域でロングトレイル事業を進めるにあたり、絶対的に取り入れるべき理念と考えている。
- ・ また、信越トレイル・ガイドラインに示された内容（生物多様性の保全を基本とします。自然・文化を学び、

伝えていきます。人と人との自然を通して地域の活性化に貢献します。) 及び、信越トレイルトレッキングルールに示された内容(トレイル内を歩きます。動植物を大切にします。ゴミはすべて持ち帰ります。トイレは施設を利用します。表示された決まりを守ります。他人に配慮します。事前に情報を収集し計画を立てます。)は、あたり前のようなことであるが、これをガイドライン、ルールとして明確にし、関係者及び利用者にも情報の共有をはかっていることは重要なことで、木村氏の講演を受けて、大山蒜山地域でロングトレイル事業、エコツーリズム事業や景観保全を進めるにあたってはカントリーコードとも呼ばれている地域自主ルールづくりから取り組むことにした。

(川嶋 直からの助言を受けて)

- ・ 川嶋氏の講演の中にエコツアーの作り方があり、「どのような人材を育てるのか?」ということで、①脚本が書ける人(旅の「場所」「時間」「体験プログラム」を組み立てる人)、②役者(お客様の前に立つガイド・インタープリター)、③プロデューサー(旅の「人」「予算」「組織」を組み立てる人)等の人材が必要とされることについて共通認識を持つことができた。大山蒜山地域においても自然体験型教育旅行やエコツーリズム事業を推進するガイド・インストラクター及びマネージャー(あるいはプロデューサー)等の人材を育成することは大きな課題である。
- ・ 歴史があり実績豊富なキープ協会と、大山蒜山地域で活動する団体とでは、比較するまでもなく大きな差があるが、幸いなことに、大山蒜山地域を中心とする中国山地には、エコツーリズムや自然体験型教育旅行を進めるにあたり、資源となる自然や文化遺産、自然と共生する人の暮らしも残り、中国地方の最高峰である大山は、古来より信仰の山であり、ブナやカエデの巨木が育つ中腹の天然林の中には、大山寺や大神山神社等数多くの歴史文化遺産が集中している。信仰によって聖域として守られた大山には西日本最大級のブナの天然林が広がり、広く国立公園に指定され、大山の山麓には昔ながらの人の暮らしや生物多様性豊かな山村の風景が広がっている。
- ・ そして、大山から岡山県北部にかけての中国山地では、特別天然記念物オオサンショウウオをはじめ、春の女神・ギフチョウ、イヌワシ、クマタカ、ヤマネ、アカショウビン、ヒメボタル等の野生生物が多く生息し、地元住民が主体的に野生生物の保護活動を行っている。加えて、この地域は、大山信仰の古道やタタラ製鉄の遺構が多く見られる他、出雲神話の舞台でもあり、他の農村地域ではみられない特有の自然や歴史文化が残る地域であり、そこに暮らす人々の手による地道な自然保護(再生)活動や歴史文化遺産保存活動が人知れず続けられている。
- ・ これら地域資源やそれを保護保全する活用とあわせて、今回の勉強会やフォーラムに参加した環境教育や教育旅行、エコツーリズムに取り組む組織・団体の代表者や関係者が連携し、サントリー森と水の学校等大山蒜山域で取組まれている環境教育事業等を活用して、人材の発掘、育成、呼び寄せも可能と考えており、キープ協会での環境教育事業に係わる人材育成の仕組みを習い、単独ではなく地域連携・広域連携による人づくりの体制づくりを進めていきたいと考えている。

●その他感想

- ・ 我々名峰景観ツーリズム・シンポジウム実行委員会は、一昨年の秋に開催した「名峰景観ツーリズム・シンポジウム大山」の開催を契機に発足させたネットワーク組織で、グラウンドワーク大山蒜山を中心に、NPO 法人富士山エコネットやNPO 法人浅間山麓国際自然学校、全国の名峰地域で活動する団体・組織と連携し、景観保全やエコツーリズムを推進していこうとする団体である。
- ・ 木村氏、川嶋氏ともに、長野県、山梨県という名峰に景観に恵まれた地域に暮らしており、木村氏には北信五岳、川嶋氏は八ヶ岳が近くにあるということで、名峰関係での連携をお願いしようと期待していたが、今回はそのあたりの話に踏み込むことができなかった。そこは残念であった。
- ・ とりわけ、八ヶ岳は山麓地域が開発や宅地化、圃場整備（農地の区画整理）等で、昔懐かしい農村風景が失われつつあるという印象をもっており、八ヶ岳山麓の農村域をフィールドとした環境学習イベント等についても時間があれば、話を聞いてみたかった。
- ・ 木村先生、川嶋先生には、これを機会に同じく名峰火山をシンボルとする地域として、今後も交流を続け、エコツーリズムを進めるにあたり、ロングトレイルや教育旅行を活用した山麓域での景観や生物多様性の保全についても、ご指導ご助言ご協力をいただきたいと願っている。



(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

NPO 法人信越トレイルクラブ 事務局長 木村 宏 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

- ・ すでに大山蒜山地域で取組が始まっているエコツーリズム推進事業のうち、山岳景観や周辺の自然景観を楽しみながら歩く道の整備を計画し、エコツーリズムを核としたツアー企画や商品開発に取り組む地域において、名峰大山をぐるりと回るルートを探し、富士山や浅間山の周遊トレイルの勉強会を2月に実施、これに引き続き「信越トレイル」をケーススタディーにした既存の古道を利用したトレッキングルート整備とツアー企画構築についての勉強会が、初雪に覆われ、ゲレンデの準備真っ最中の大山中ノ原スキーセンターにて開催された。

●アドバイス（講義等）の概要

- ・ 講義は、日本ロングトレイル協議会の活動内容や現在の日本国内各地におけるロングトレイルの現状、信越トレイル設立の経緯、アパラチアン・トレイルへの視察、整備マニュアル・ガイドラインの作成、ボランティア組織の運営、維持管理の仕組、地域との連携、情報発信等についてお話した。
- ・ 特に信仰の山へ詣でるための「大山古道」を使いエコツーリズムの柱としていく構想を伺い、信越トレイルに存在する長野・新潟県境の峠道が地域をつなぐ交流の道であり、戦国時代の戦道だったこと、南の起点でもある斑尾山がまさに修験の山であったことから、信越トレイルにまつわる歴史的背景をお話させていただき、その情報を提供するガイドの勉強会等の話もさせていただいた。また、でき上がったトレイルの維持管理について、アメリカのアパラチアン・トレイルを視察し、そのシステムやマニュアルを大いに参考とし、次の世代に残していく仕組を作った事例を紹介もした。
- ・ 現在信越トレイルは10の市町村境に接し、150もの集落を貫く峰の道で、周辺関係者の理解なくして存在しない。また何より地域住民の理解を第一に完成までの8年間、多くのボランティアがルートづくりに参加し、その後の維持管理もボランティアや地域の関係者が行っている。今後の世代へこの資産を継承していくための、子どもたちの学びの場としての活用も実施、地域の学校等との連携も大切にしている、という話をさせていただいた。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 古道復活は、単なる観光目的での整備ではなく、古くから信仰の対象であった大山をたどる道として、地域住民や歴史の研究者等の協力を得て、何故古道復活か、再利用の目的や住民との関わりを明確にし、住民理解と協力のもと実施する必要がある。点在する集落の想い、歴史観、古道を巡った人々の想いはそれぞれ貴重な財産であり、その道を歩くということはさまざまな想いを巡る旅でもあるはずで、更にこの想いを新たに歩く人に伝えることが古道復活のポイントではないでしょうか。
- ・ この勉強会の2日目に予定されていた、古道を歩くツアーが荒天のため中止になったこともあり、現場を歩くことができず、車で山麓をご案内頂くにとどまりました。すでに古道を利用したツアーも実施されているようですが、環大山すべての古道の利用のガイドラインやルール、整備方法や、PR等、トータルコーディネート組織が明確になっているのか、ツアーガイドまたはその組織の成熟度はどうか、地元の理解はどうか、等、さらなるエコツアー推進のための確認が必要ではないでしょうか。古道を巡るための情報があまりありませんでした。大山周辺にすでに運行されている「大山ループバス」との関わりや、各施設、宿や旅行代理店との関係もしっかり構築する必要もあるのではないのでしょうか。

- ・ エコツーリズムを推進する体制づくりは、オール大山の体制づくり、理念の共有が最重要課題ではないでしょうか。勉強会の参加者の多くは、大山の歴史や文化、自然環境にとっても熱く語られる方が多くいらっしゃいました。これらの想いを一つにする、そして形にするコーディネート役（人であり施設）の必要性を感じました。
- ・ 勉強会でもお話ししましたが、現存する大山詣での古道を、あえて「ロングトレイル」と呼ぶ必要はないように感じました。ロングトレイル整備というよりも、古道としての意識の共有、歴史の継承、インタープリテーションや、維持管理の仕組づくりが優先課題で、大山詣での道は地域の宝、「古道」としておく。更に環大山を結ぶ（大山に縦ラインで向かった古道を大山の裾野で横ラインにつなぐ）道の整備こそ、ロングトレイルと呼ぶに相応しいのではないのでしょうか。この「道」の整備によって、大山・蒜山エリアの歴史の足跡を巡る大山古道巡りとそれをぐると結ぶ「環大山蒜山ロングトレイル」ができれば、2本の柱でエコツーリズムを売り出すことができるのではないのでしょうか。
- ・ 蒜山高原周辺もご案内いただきましたが、大山地域とは違う風景が広がり、農村風景あり、田園地域、高原エリアと実にバリエーションにとんだ風景が広がり、またどの角度から見ても大山の勇姿がそびえ、その表情や形が全く違う。大変魅力的な風景が周辺には広がっています。
- ・ 富士山の周辺を巡る道の整備も始まったようです。名峰景観ツーリズムに相応しい環大山蒜山ロングトレイルと、古道大山道がともに刺激し合い、相乗効果を得、良い品質で提供されることを夢見て大山をあとにしました。

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

- ・ 今回エコツーリズム推進アドバイザー派遣を依頼された「グランドワーク大山蒜山」は鳥取県（大山）から岡山県（蒜山）に渡る地域を中心に自然保護・景観保全の活動を進めている団体です。グランドワーク大山蒜山は、この地域での風景保全や生物多様性の保全と合わせて、大山蒜山自然学校の運営、大山古道の復元活動、名峰地域の風景風土を楽しむ田舎暮らしツーリズム、ギフトウヤオオサイショウウオの生息環境保全等の事業を、地域住民、行政、企業を協力しながら展開しています。奥大山では、サントリー水育「森と水の学校」にインストラクターとして環境学習プログラムづくりに関わっています。

●アドバイス（講義等）の概要

（「自然体験型教育旅行勉強会まにわ」での講演と意見交換）

- ・ 参加人数が 10 数名だったので、パワーポイントでのプレゼンテーションはせずに、ホワイトボードに A4 コピー用紙にキーワードを書いた紙を次々貼ってゆく「紙芝居プレゼンテーション法（KP 法）」で講義を実施しました。
- ・ 最初にキープ協会での取組の紹介をし、キープ協会の環境教育事業の基本は、一方的に情報を伝える手法は取らず、参加者（学習者）中心で「参加型・体験型」を大事にしていることをお伝えしました。
- ・ 聴衆の中に、実際にガイドをされている方が多かったこともあって、「伝え方」について少し丁寧にお話しました。つまり、伝える側の「伝えたい思い」だけで伝えても必ずしも伝わってはいないこと。受け取る側の「受け取りたい思い」を作り出すこと、そしてそれに答えることが大事という意味のお話をしました。
- ・ 川嶋氏自身の 30 年前のバードウォッチングの失敗談等も織り交ぜながら、伝える側からだけの論理で教育プログラムを組み立てることへの警鐘をお話しました。
- ・ 講義が終わった後には、数人で小さなグループを作っていただき、講義で聞いた内容についての感想を言い合ったりしました。その結果浮かび上がってきた質問をしていただき、それに答えてゆきました。

（「大山・中国山地自然体験型教育旅行フォーラム」での講演と質疑応答）

- ・ 前日と違って大きな会場で 50 数人の参加者であったため、パワーポイントによるプレゼンテーションの方法を取りました。
- ・ 冒頭で、公益財団法人キープ協会の概要を紹介、次にキープ協会で実施している「自然体験プログラム」の紹介をスライドを使って行いました。体験プログラムはどれもちょっと視点を変えるだけで「すぐに真似できる」ものばかり、本当は実体験をしていただきたかったのですが、ここではスライドでの疑似体験をしていただきました。皆さん楽しそうに聞いていただきました。
- ・ その後「教育とは、伝えることとは」「環境教育とは」「エコツアーに必要な人材」「その人材の育成手法」「（環境教育プログラムの）企画の作り方」等を紹介した後、ここ数年私達が活動をしている、山梨県・長野県にまたがる八ヶ岳地域全体で非常に高い人気を維持しているイベントを紹介しました。それは「婚活 de 八ヶ岳」というイベントです。年間 40 回近く開催され（ほぼ週に 1 回）、毎回 20 数名の定員をほぼ一杯にしているイベントです。主催者は地域のそれぞれの宿泊施設・団体等、行政が主催の場合もあります。統一されているのは、「婚活 de 八ヶ岳」というネーミング、当日の進行役（ファシリテーター）の存在、そして広報の一本化です。「婚活」という社会的ニーズと、地域の小さな、でも個性的なさまざまなグループがいるというポテンシャルとがうまく合致した好例として紹介しました。（実は、このイベントのファシリテーターは、元キープ協会環境教育事業部の職員なのです）

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ グランドワーク大山蒜山は岡山鳥取両県にまたがる非常に広い地域の地域づくりに関わる団体です。関係する県が2県、市町村は更に多い数となります。このことから分かるように、この働きは行政主導型ではなく、民間のネットワークで広域の地域づくりを試行している面白い団体であると思いました。
- ・ 1月29日の「自然体験型教育旅行勉強会まにわ」の集まりでは、具体的な取組として真庭町の津黒いきものふれあいの里館長から、真庭町の教育旅行の取組のお話を伺いました。真庭市は「バイオスタウン真庭」としてツアーの試みもされていることをお聞きしました。「バイオマス発電」や「木質ペレット」、他にも「自然エネルギー」のさまざまな試みは、教育旅行（エコツアー）実施に向けて、非常に高い地域のポテンシャルをお持ちだと感じました。
- ・ また29日の集まりには、関西地域等から真庭の自然が好きで移住された方々も数名参加されていて、その方たちを中心に真庭の魅力を伝える「ガイド」事業も実施されていることも伺いました。具体的なガイドの中味（何を、誰に、どうやって伝えているのか？）については詳しくお伺いすることができませんでしたが、こうした人材は今後の真庭の教育旅行推進のために非常に重要な人材であると思いました。
- ・ 蒜山・大山両地域とも、私がお伺いすることがきっかけで、地域の自然・歴史・文化資源をエコツーリズムに活かしてゆく方向性を持つ方たちが集まり、情報を共有することができたことは大きな意味があったのではないかと思います。これを機会に更に地域の強いネットワークが形成され、同時に（一緒に仕事をする）「ワーキングネット」になることを期待しています。
- ・ 特に大山地域では2013年秋にはエコツーリズム国際大会が計画されているというお話も今回お伺いしました。今回のような小さな「つながりづくり」の試みをベースにして、秋の地域外からの強い刺激をバネに、一層のエコツーリズム事業の推進を期待する所です。
- ・ また、大山地域ではサントリー森と水の学校の事業も数年にわたり行われています。こうした企業とのコラボレーション事業が良い先例となって、関西・中国地域の企業と力を合わせて、さまざまな社会的課題解決に向けた働きを進めて行かれることも期待されます。コラボレーションにより良い事業が行われることは、企業にとって高い社会的評価を機会になると同時に、地域の小さな団体にとっても安定的な事業を行う良い機会となることでしょう。